

農業共済新聞 千葉版

掲載号	4 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 河名 利幸
題名	ソテツの害虫クロマダラソテツシジミ	
備考	【写真説明】 写真1 クロマダラソテツシジミの雌成虫 写真2 ソテツの新葉を食害する幼虫	

【本文】

2009年8月に、千葉県内では初めてソテツを加害するクロマダラソテツシジミの発生が確認され、幼虫による食害で激しい被害を受けた株が多くみられました。この害虫は、成虫が開翅長約30mm、終齢幼虫が約15mmの大きさのシジミチョウの仲間（写真1）で、幼虫による食害が展開直後の葉や未展開葉でみられ（写真2）、硬化した葉では食害はみられません。本来は熱帯から亜熱帯に分布している害虫ですが、2006年以降沖縄県八重山諸島に定着し、九州、関西地方での発生も確認されています。今回の千葉県での発生は、ほぼ同時期に東京都や神奈川県でも初発生が確認されたことから、既に発生している地点からの成虫飛来による発生と推測されます。県内への侵入後は、秋にかけて世代を繰り返しながら早い速度でほぼ連続的に分布域を拡大しました。そこで、本県で定着できるか、越冬の可能性を検討しました。しかし、県南部地域の露地における冬季の温度条件では、蛹の状態ではほとんどの個体が死亡するか、羽化が不完全となり、越冬の可能性はほとんどないことが明らかとなりました。翌2010年に実施した調査では県内での発生及び被害は確認できず、越冬や既発生地域からの成虫飛来はなかったものと考えられます。

しかし、海外にしかいなかった本種が、地球温暖化などにより南西諸島にも定着し、成虫が九州や本州へも飛来しやすくなったと推測されています。今後もこのような突発的な発生事例が生じる可能性があり、注意していく必要があります。



写真1 クロマダラソテツシジミの雄成虫



写真2 ソテツの新葉を食害する幼虫